

1 上越カリキュラムの特色

◆ 上越カリキュラムの開発について

■ 上越カリキュラムの開発の目的

上越市教育委員会と上越市立学校が連携し、上越カリキュラムの開発及び推進を行うことで、上越市の学校教育の方向性や方法等について統一性・共通性をもちながら上越市の学校教育目標の実現を目指すとともに、学校の創意工夫・特色のある教育活動をこれまで以上に推進し、学校教育の質の向上を図ります。

■ 上越カリキュラムの開発の理由

「生きる力」をはぐくむ教育の推進

学校として、目指す子ども像を明確にして、学びと成長に有効に結び付く教科指導、総合的な学習の時間、道徳教育等の在り方を総合的・構造的にカリキュラムとしてデザインし、教育活動を行うことで「生きる力」をはぐくむことが必要です。

教職員の実践的力量形成

子どもが成長発達するように、教職員もまた日々研修と実践を通じ成長発達していきます。カリキュラムについても、「開発する」「マネジメントする」という発想に立ち、教育専門家としての時代のニーズに合った自覚と力量を高めることが求められています。

教育行政の役割

多忙化する教育現場の負担を軽減し、学校の自主性・自律性を支援できるよう、教育センターにカリキュラムセンター機能を設け、カリキュラム研究、カリキュラムモデルの開発、カリキュラム研修を行い、学校からの要請に応じて支援していく体制を整えていきます。

学校力の強化

地方分権の時代を迎え、学校経営の自主性・自律性の内実が改めて問われています。それぞれの学校の教育理念や理想を表現するカリキュラムを中核にし、教職員がそれぞれの知恵を出し合う職場の協働性、そして、創意と工夫により、学校力を高めていくことが求められています。

新市としての課題

各地の教育財産や教育資源の共有と活用を図り、新しい市としての一体感を醸成していくことが求められています。市内の諸施設や自然環境を利用した体験活動、史跡や文化財、文化、地域の匠や名人などを活用した学習活動のより多様な展開が必要です。また、それが郷土を愛する心を耕し、郷土をはぐくむこととなります。

学校や教職員が力を合わせ、上越の子どもたちを育てていきましょう。



◆ 上越カリキュラムって、何！

■ カリキュラムとは

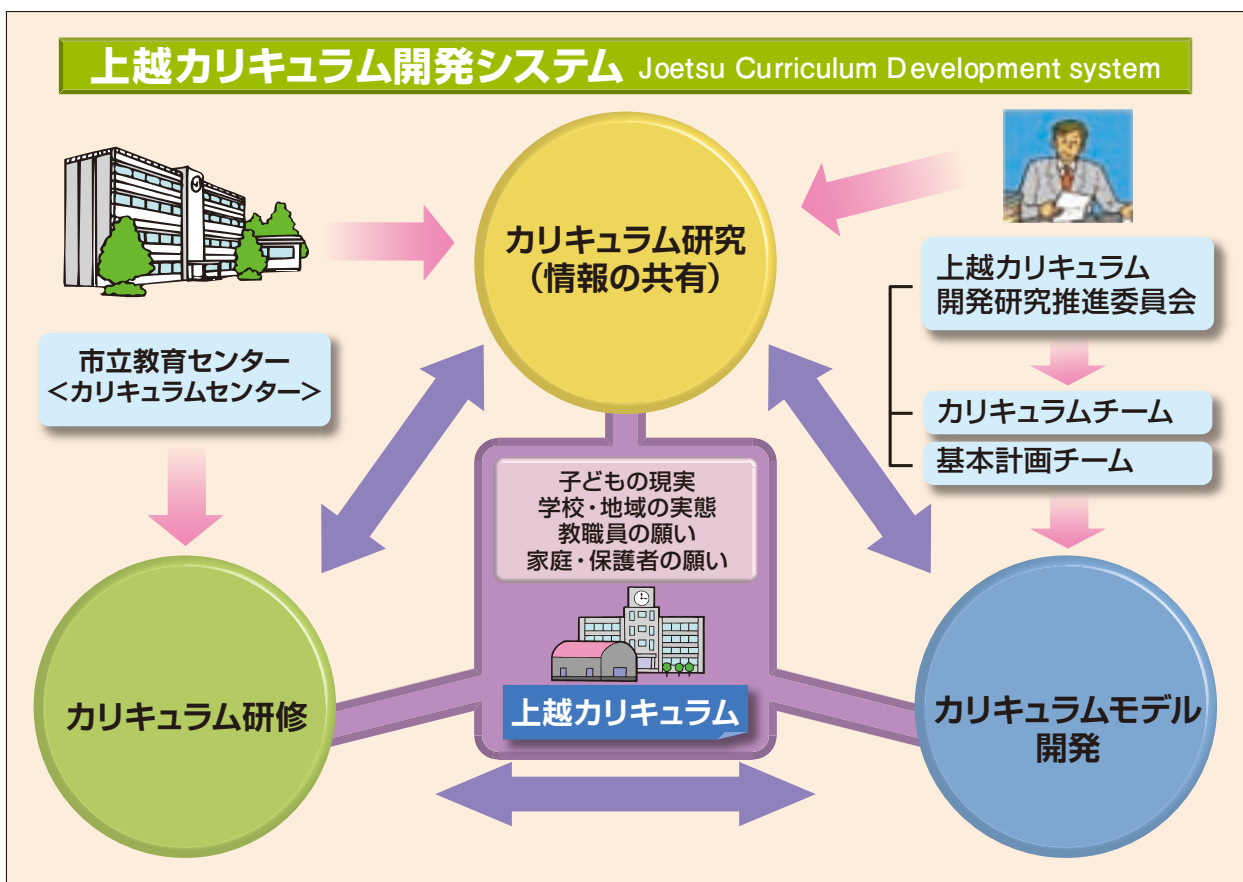
カリキュラムは、currere（走る）というラテン語から派生し、転じて「走路」、さらには「学習する道筋」ととらえられ、現在、一般的には「学習経験の総体」という意味をもつとされています。カリキュラムは「教育課程」と訳されることが多く、「年間授業時数」「指導計画」という計画されたものというイメージが強くありました。

学校評価システムがP D C Aサイクルにより学校改善を図っていくように、カリキュラムにおいてもマネジメントが問われています。つまり、子どもたちの育成を図るためには、カリキュラムの計画、実践、評価、改善により、教える側の視点だけでなく、学ぶ側に立った幅広い指導方法、学習形態、人的・物的学習環境等も考慮するとともに、教職員と子どもたちがともに学習活動をつくり出し、特色ある教育活動を展開していく必要があります。

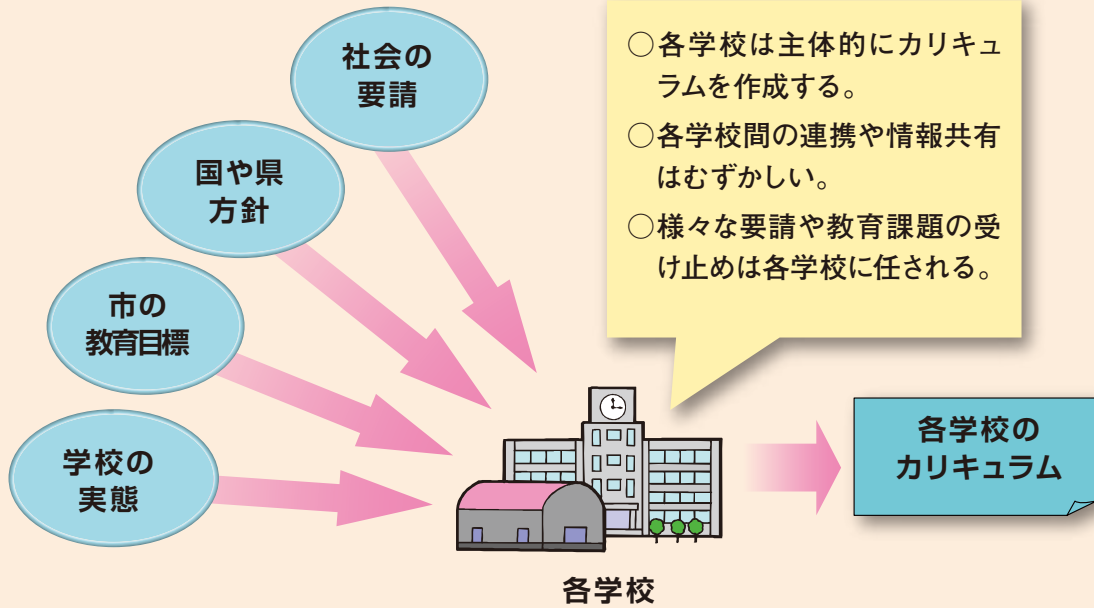
こうした考えに立って、カリキュラムを計画されたもの、形式化、固定化されたものにとらえず、実践、評価、改善を含む広い範囲での教育活動のまとまりととらえていきます。

■ 上越カリキュラムとは

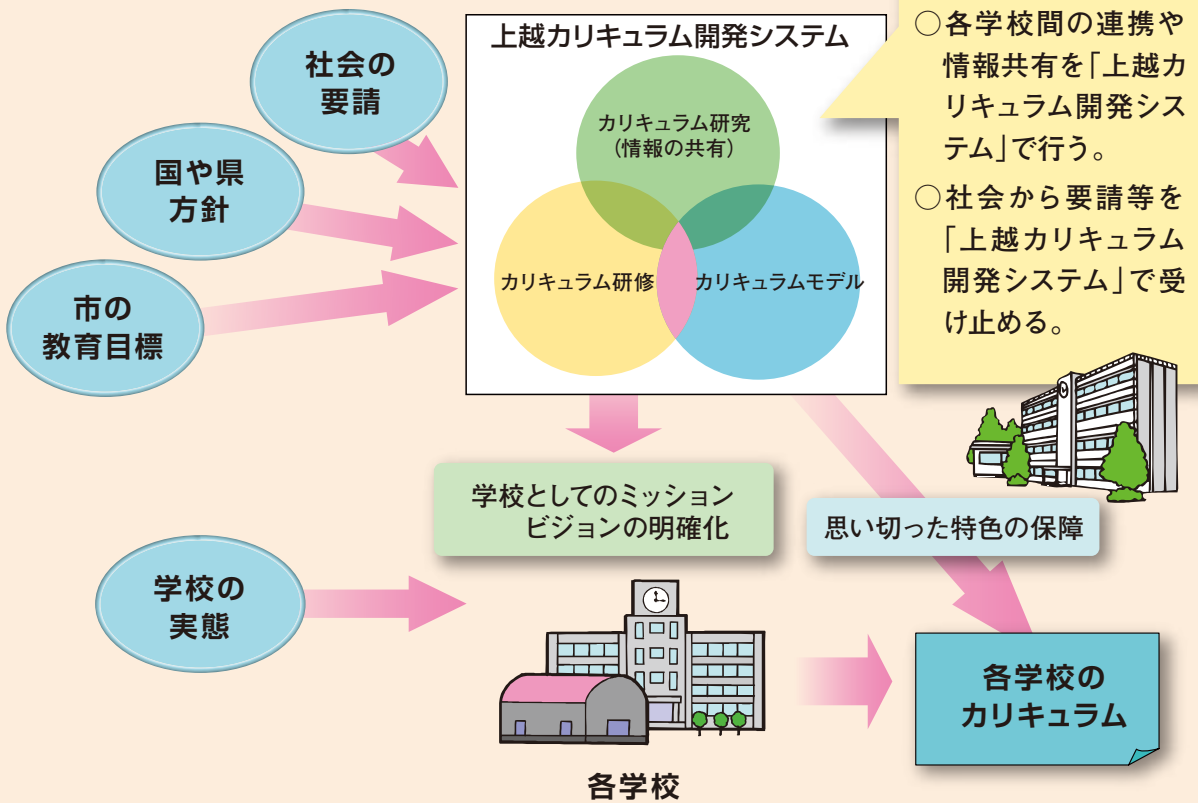
上越市では、カリキュラムの開発と推進のため、上越カリキュラム開発研究推進委員会と市立教育センターが中心になって、「カリキュラム研究」「カリキュラム研修」「カリキュラムモデル開発」を進めています。学校の実態や実践を踏まえた「カリキュラム研究」を行い、その実績を生かす形で「カリキュラムモデル」を開発し、合わせて、カリキュラム研究とカリキュラムモデルについて



これまでのカリキュラム

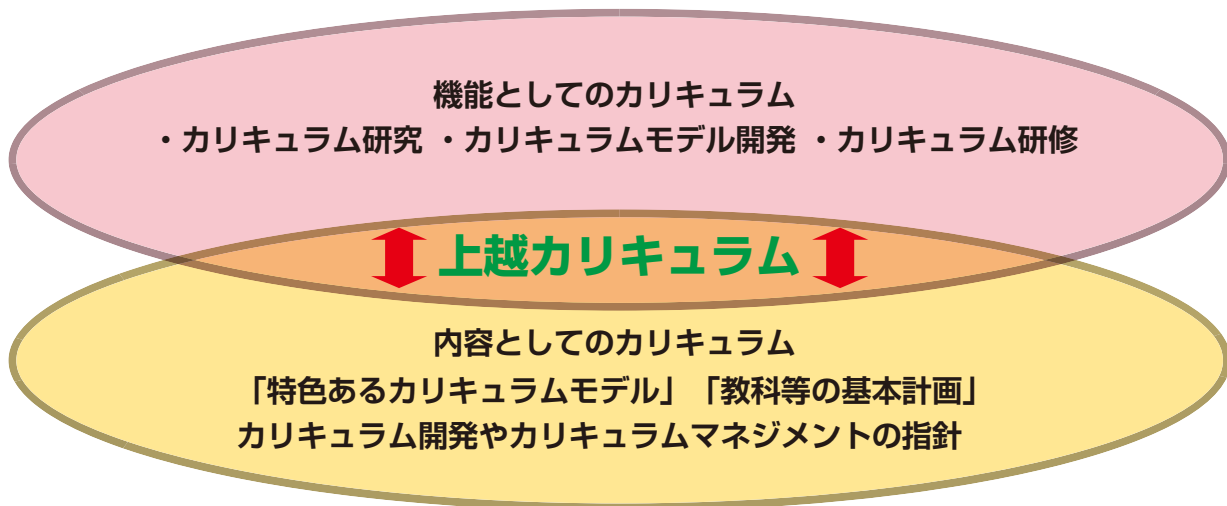


これから目指すカリキュラム開発



の研修を行っていきます。このように相互に関連させていくことで、市内の教職員や学校がカリキュラムについて学び、考え、あくまでも自校に合ったカリキュラムを開発していけるよう支援していきます。

「上越カリキュラム」とは、すべての学校が取り組まなければならないカリキュラムの共通性の研究やカリキュラムのモデル開発、カリキュラム開発やカリキュラムマネジメントの研修などを行う機能を総称するとともに、「上越カリキュラム開発システム」で示された「特色あるカリキュラムモデル」「教科等の基本計画」、カリキュラム開発やカリキュラムマネジメントの指針などの総体としてとらえるものです。



◆ これから目指すカリキュラム開発

■ 上越カリキュラムの目指す方向

子どもと生成していくカリキュラム

つくり上げたもので終わらせるのではなく、つくり続けていくカリキュラムを目指します。つくり続けるカリキュラムを通して、子どもたちの学びの素晴らしさや現代的課題が抱える重要性に気付き、自らカリキュラムをつくるよさや面白さを感じ取ることが、教師をはぐくんでいくことになると考えます。

特色を生み出すカリキュラム

自校の教育課題を踏まえ、特色ある学校づくりや各教科等を横断してはぐくむ能力の育成等を明確にしたカリキュラムの開発を目指します。そのために、総合的な学習の時間や各教科、特別活動等を中核にしたり、関連付けたりするカリキュラムの開発を行います。

学校が主導権を発揮するカリキュラム

各学校が、国や県の方針、社会からの要請等をすべて受け止め、ゼロから考えていくのではなく、上越市全体として、共通のもの、必ずおさえるべきものを整理し、モデルの作成・提示を行っていきます。そこから学校がスタートし、自校の特色ある取組とかがかわらせながら、自校としての取組を行っていきます。学校が、自校のカリキュラムをどのようにマネジメントし、学校づくりをどのように進めるのか、地域に根ざした学校経営の戦略を描き、主導権を発揮するカリキュラムを目指します。

2 上越カリキュラムの位置づけ

◆ 学習指導要領と上越カリキュラムの関係

平成20年1月、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」が出され、同年3月には小・中学校の学習指導要領改訂が告示されました。

新学習指導要領では、現行学習指導要領の理念が引き継がれ、「知識基盤社会」の時代を迎え、子どもたちの「生きる力」をはぐくむということがますます重要になるとされています。そして、現行学習指導要領において「学習指導要領の理念（生きる力をはぐくむこと）を実現するための具体的な手立て」が必ずしも十分でなかったことについて、次のような課題を取り上げています。

「基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくことが求められている」

「各教科等で得た知識や技能等が学習や生活において生かされ総合的に働くように、体験的な学習や問題解決的な学習を重視する総合的な学習の時間を創設したが、学校教育全体で思考力・判断力・表現力等を育成するための各教科と総合的な学習の時間との適切な役割分担と連携が必ずしも十分に図れていない」

「生きる力」の育成は、「各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「観察・実験、レポートの作成、論述といった知識・技能を活用する学習活動」、「総合的な学習の時間での課題解決的な学習や探究活動」を通して行われます。したがって、上記の課題を踏まえ、「各教科での習得や活用と総合的な学習の時間を中心とした探究は、決して一つの方向で進むだけではなく、例えば知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合って力を伸ばしていく」ものであり、関連化、構造化していくことが求められています。

一方、地方分権、規制緩和の流れの中で、学校の自主性・自律性の確立が改めて問われています。こうした中、学校の教育理念や教育目標を表現し、実現するカリキュラムの重要性が注目され、カリキュラムを中心とする学校経営や教育活動の改善と推進が大きな課題となっています。

中央教育審議会答申では、学習指導要領の「基準性」を踏まえ、各学校の子どもたちの実態に応じた学習指導の在り方を求めています。教育課程においても、次のように「教育課程編成・実施に関する各学校の責任と現場主義の重視」を示しています。

各学校は、大綱的な基準であるこの学習指導要領に従い、地域や学校の実態、子どもたちの心身の発達の段階や特性を十分考慮して適切な教育課程を編成し、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開可能な裁量と責任を有している。

「生きる力」の育成のためには、学校の実態や地域の特徴を生かしながら、目指す子ども像やはぐくみたい力を一層明確にした創意工夫あるカリキュラムの開発、実施、評価、改善を推進していく必要があります。

上越市では、地域の子どもの生きる力を、地域の力で育てるために、ナショナルスタンダードを踏まえつつ、ローカルオプティマムを重視しながら地域に根ざした教育を推進していきます。

上越カリキュラムでは、「学習指導要領」「上越市総合教育プラン」「上越市学校教育目標」等を踏まえた、市立学校のカリキュラムづくりの指針や内容を示していきます。学校は、学習指導要領を基に、上越カリキュラムで示されたモデルや指針、内容を取り入れて、公立学校としての標準性を確保しつつ、学校の独自性、子どもたちや地域の実態を踏まえたカリキュラムを目指します。

ナショナルスタンダード

学習指導要領

- ◆小・中・高・特別支援学校の幼・小・中・高等部の学校教育における教育課程編成上の大綱的基準として告示されるもの。
- ◆義務教育の役割として、指導すべき内容の最低基準が示される。

- ・法的拘束力
- ・教育課程編成の現場主義の奨励

ローカルオプティマム

県：学校教育の重点

上越市総合教育プラン

上越市学校教育目標
実践上の重点

上越カリキュラム

(内容としての)

「学習指導要領」「上越市総合教育プラン」を踏まえた、市立学校のカリキュラムづくりの指針や内容を示す。

○「特色あるカリキュラムプラン」

モデル

指 針

カリキュラム開発やカリキュラムマネジメントのためのモデルや指針

○「教科等の基本計画」

学力向上にかかわる内容

上越らしさを学ぶ内容

その他の内容

必修 選択 事例

カリキュラムづくりの内容

各市立学校

学習指導要領を基に、「上越カリキュラム」で示されたモデルや指針、内容を取り入れて、公立学校としての標準性を確保しつつ、学校の独自性、子どもや地域の実態を踏まえたカリキュラムをつくる。

◆ 上越市学校教育目標と上越カリキュラムの関係

上越市総合教育プラン

- 多様な地域性に富む上越市のよさを生かした教育（「教育プラン策定の目的」より）
- 学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着を確実にした、確かな学力の定着
- 感性に富み、誇りや自信がもてるような心の豊かさの育成
- 今日的な教育課題の解決を図り、変化する社会で求められる能力の育成
- ふるさとを愛し、上越で生まれ育ったことを誇りにする子どもたちの育成

（「学校教育の方向」より）



上越市学校教育目標

「ふるさと上越を愛し、学ぶ力、豊かな心、健やかな体をもって、
自立と共生ができる子どもを育成する。」



上越カリキュラム

機能としてのカリキュラム

・カリキュラム研究 ・カリキュラムモデル開発 ・カリキュラム研修

内容としてのカリキュラム

「特色あるカリキュラムモデル」「教科等の基本計画」「開発やマネジメントの指針」

上越市では、平成19年度「上越市総合教育プラン」を策定しました。これは、基本構想、基本計画、実施計画で構成され、今後10年間の上越市の教育の姿を示したものです。これを受け、平成20年度「上越市学校教育目標」を改訂しました。「知・徳・体」をバランスよくはぐくむだけでなく、自分が生まれ、育ったふるさと上越に愛着をもち、自らの力でよりよく生きていこうとする「自立」、様々な人と共に認め合い高め合いながら生きていこうとする「共生」の力と心を育てていきたいと考えています。

◆ 夢づくり提案活動支援事業とのかかわり

- 平成19年度から、上越市では、次の目的で「夢づくり学校提案活動支援事業」を策定しました。
- ・学校提案に基づく主体的な教育活動や学校づくりを行う各学校に対して、必要な情報を提供したり所要経費を交付したりするなどの支援を通して、学校提案の実現を図る。
 - ・各学校の特色づくりや学校課題解決の取組を推進することを通して、上越市の学校教育の質の保障と向上を図る。

夢づくり提案活動支援事業では、学校は、「自校の教育課題解決のために何を中心に学校づくりを行うか」をより一層明確にすることが求められています。上越カリキュラム開発研究では、学校現場の実践知を取り込みながら開発研究を進め、学校に対してカリキュラム開発や評価、マネジメント等について指針とモデルを示していくこととなります。また、学校の教職員に対して、教科指導やカリキュラムに関する研修会の機会を提供していきます。

したがって、学校は、「上越カリキュラム」で示されたモデルや指針、内容を取り入れたり、カリキュラムに関する研修会で学んだりしながら、学校や地域の実態を生かしたカリキュラムをつくることで、「主体的な教育活動や学校づくり」「各学校の特色づくりや学校課題解決の取組」がより一層可能になります。

～上越カリキュラムの開発推進と実現のための全体構想図～

